

教科等研究会（小学校音楽部会） 平成28年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」

（仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	実技研修会	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/26	17名	甲佐小	8/4	津森小		11/25	白旗小	赤松佑香教諭	1/27	小坂小	倉岡薫教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

小学校音楽科の改訂の基本方針において、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成するために、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考判断する力の育成を一層重視することが示されている。

「音楽のよさを感じ取る」とは、自分がふれた音楽の内容を自分なりに価値あるものとして、自らの感性によって確認することである。感じ取ったこと（感受）を判断する根拠となるものが「音楽のもと」つまり【共通事項】である。

「思いをもって表現する」とは、表現に対する明確な考えをもって歌うこと、演奏することの意味している。音楽の要素や仕組み【共通事項】に着目した指導を工夫していくことで少しずつ子どもたちの音楽をとらえる視点を増やすことにつながる。さらに、「もっと強弱をつけて歌いたい」「曲想の変化を感じ取りたい」など、児童自身が思いや願いを見出していくものとする。子ども自らが「～したい」という思いや願いをもつことで、主体性を生み出す。そして、主体的に思考・判断する子どもは、「生き生きと表現する子ども」であるとする。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組み【共通事項】を聴き取る力を生み、これをもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの姿を目指し、本研究テーマを設定した。

② 研究の実際

ア 実技研修会による研究

「音楽科授業の導入における音楽活動の工夫」（モデルクラス：津森小学校6年児童）

「リコーダー指導」（実技研修）

「篠笛」（実技研修）

講師 益城町立津森小学校教諭 石村 幸二先生

会員の音楽指導の工夫のため、津森小学校の6年生の学級をモデルクラスとして、実技研修を行った。

「音楽科授業の導入における音楽活動の工夫」では、児童が音楽に興味を持ち、楽しんで学習をしたいという意欲が高まる実践例を教えていただいた。子どもたちが苦手意識を持つことが多い強弱記号や速度記号、楽譜表記の名称やその意味などの楽典を「楽典ビンゴ」にしたり、「イントロ当てクイズ」で鑑賞曲の曲名や作曲者名などを問題にすることで日頃から楽曲に興味を持たせる工夫があった。

「リコーダー指導」では、伴奏CDを使って、リコーダーのタンギングや運指、強弱などをスモールステップで学習する方法を演習した。また、朗読とリコーダー演奏を組み合わせた

取組も紹介していただいた。

和楽器の学習では、塩ビ管で製作した「篠笛」を使って、「上野の虎舞」を演奏した。音の出し方を知り、日本の音楽の曲想を感じながら演奏することができた。実物に触れるよさを実感した。

この実技研修により、会員は、津森小学校の6年生の子どもたちが生き生きと学び、音楽に親しみながら表現している姿を目の当たりにし、改めて学習の基盤である学級経営の大切さ、「音楽は楽しい」と感じる音楽活動の素晴らしさを学んだ。

イ 研究授業① 第4学年「にっぽんのうた みんなのうた」

指導者 甲佐町立白旗小学校教諭 赤松 佑香先生

歌唱教材「もみじ」を使って、歌詞が表す情景を想像し、歌い方を工夫する学習であった。歌詞の内容や音楽を形づくっている要素を手がかりに、楽曲に対する理解を深めること、曲にふさわしい歌い方で歌おうとすることをねらった。もみじの写真などの視覚的教材やパート別のグループ学習など工夫されていた。

ウ 研究授業② 第1学年「ようすをおんがくで」

指導者 御船町立小坂小学校教諭 倉岡 薫先生

歌唱教材「おもちゃのチャチャチャ」を使って、チャチャチャのリズムに合わせ、音色を工夫する学習であった。前時の鑑賞教材「おもちゃのへいたい」で、楽器の音色に気をつけ、その情景を想像した学習を本時の「表現」に生かした。自分が表現したいおもちゃに合った音色を求め、グループで楽器選択や奏法の工夫ができるように場の設定が工夫されていた。

(2) 成果と課題

(成果)

- 研究授業では、「鑑賞」を生かした「表現」の領域を研究することができた。音にこだわること、表現しながら考えを深めていくことの大切さを学んだ。
- 研究授業では、思いや願いを持って生き生きと表現する子どもの姿があり、今後の授業づくりの参考になった。
- 事前研究会を計画的に開くことができ、研究テーマを深めるための授業づくりを検討することができた。

(課題)

- ◆2学期の半日研修（授業研究会）の期日が、校内の行事や出張と重なり、参加できない会員が多かった。多くの会員が参加できる期日を設定する必要がある。
- ◆研究する領域が偏ることなく、「表現」「鑑賞」「音楽づくり」の研究ができるように計画していきたい。来年度は「鑑賞」の授業にも取り組みたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第4学年「にっぽんのうた みんなのうた」 教材「もみじ」

指導者 甲佐町立白旗小学校教諭 赤松 佑香先生

(授業研究会より)

- 子どもたちが意欲的に学習に取り組んでいた。パートごとにCDの音源や拡大楽譜が準備されており、活発に話し合いながら、友だちと音楽表現を楽しんでいるところがよかった。集団は、自分たちの考えを発展させることができるので、話し合い活動は重要である。
- 相手のパートの音を聞きながら練習できるように、CDの音源が準備されていたが、CDの範唱の歌い方に着目する児童がいた。歌い方の工夫の根拠がCDの範唱とならないように、ピアノの音で音程をとり検証していく方がよいという意見があった。
- 低音パートの子どもたちは、歌詞を根拠に、強弱をつけるなどの歌い方を工夫していた。
- 初めての二部合唱曲で、音程とりを頑張ったが、相手のパートの音に引っ張られる傾向にあった。二部に分かれるところでは、前の音からつなげる練習をするとうい。
- 一つ一つの歌詞にこだわることは、大事な段階であるが、曲全体をとらえ、どのように表現したい曲かを考え、そのために、曲のどの部分をどのように工夫したらよいか考えるのもよい。「もみじ」はきれいな声で歌いたいという子どもの願いを膨らませていくのもよい。

(2) 学習指導案

1 題材名 にっぽんのうた みんなのうた

教材：「もみじ」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領のA(2)ア「歌詞の内容を工夫して、自然で無理のない声で歌うこと。」(3)ア「呼吸及び発音の仕方について、自然で無理のない声で歌うこと。」をねらいとしている。

「もみじ」は、晩秋の美しい情景を描いた歌である。視覚的なイメージを持って歌うことに適している。また、二部合唱で、追いかけるように旋律が重なる部分や同じリズムで重なる部分、対比的に重なる部分など、重なり方の違いがはっきりと意識できる曲である。子どもたちは、自分の音が友だちの音と重なり、みんなで合わせる美しさと楽しさを味わうことができると考える。そこで、本教材では、歌詞の表す情景をイメージして楽曲の気分にあった表現を工夫して歌う学習を深めていきたい。また、旋律の重なりを意識させていくことで、相手の声を意識しながら合唱しようとする気持ちを持たせたい。授業においては、美しさを表現する声の出し方を考えさせたい。また、お互いの声を聴き合いながら歌うために、グループ練習などを取り入れ、アドバイスしながら練習できるように手立てをとっていきたい。旋律が重なる美しさを十分に感じ取らせ、合唱を進んで楽しもうとする態度につなげたい。

(2) 学級の実態 (13名)

大部分の児童が歌うことを好んでいる。また、みんなで一緒に歌うことに楽しみや気持ちのよさを感じている児童が多い。一方で歌詞の意味に関心を持ったり、歌詞の意味を考えながら歌っている児童は多いとは言えない。そのため、本題材において、歌詞から山のもみじの美しい情景をイメージさせて、歌唱表現に生かしていきたい。

(3) 指導上の留意点

- 歌詞の表す情景をイメージしやすくするために、山のもみじの写真や絵、もみじの散る映像や実物などの資料を用意する。
- 拡大楽譜に主旋律と下声部を色分けして示し、2つの旋律の掛け合いや重なりを視覚的に意識しながら歌うことができるようにする。
- 児童が考えた歌い方の工夫を確かめながら歌うことができるように、拡大楽譜に自分たちで工夫を書き込めるようにする。
- 自分たちの工夫を確かめたり、歌い方の変化に気づいたりすることができるように、指導前後の合唱を録音し、比較して聞くことができるようにする。

3 目標

- ・日本の情景の美しさを想像して表現に生かしたり、互いの声を聴き合って合唱したりする活動に進んで取り組もうとする。
- ・歌詞の表す情景や旋律を生かし、どう表現するか思いや意図を持つ。
- ・互いの声や伴奏を聴きながら、曲想を生かして歌う。

4 指導計画 (4時間) (抜粋・第1次は省略)

時	○主な学習内容・学習活動(共通事項)	評価規準【方法】
1	○範唱を聴いて感じたことを発表し合う。 ○歌詞の意味を理解して、主旋律を歌う。 (旋律・フレーズ)	☆歌詞の表す情景を想像しながら、進んで歌おうとする。 〈関心〉【発言内容・表情観察・行動観察】
2	○副次的な旋律を歌う。 ○パート分けをする。(旋律・フレーズ)	☆副次的な旋律を覚え、歌うことができる。 〈技能〉【演奏聴取】
3	○パートの練習をし、試しの合唱をする。 ○前半と後半の旋律の重なり方の違いを意識して歌う。 (旋律・音の重なり)	☆相手の声を聴きながら、自分のパートの旋律を歌うことができる。 〈技能〉【演奏聴取】
4 本時	○「もみじ」の歌い方を工夫する。 (フレーズ・強弱・声色)	☆強弱やなめらかさに気をつけて、「もみじ」の歌い方を工夫している。 〈創意〉【演奏聴取・発言内容】

5 本時の学習

(1) 目標 強弱や滑らかさなどに気を付けて、「もみじ」の歌い方を工夫している。

(2) 展開

過程	主な学習活動 発問● 指示○ 予想される児童の反応C	指導上の留意点	備考
めあてをつかむ (5)	1 「もみじ」の合唱をする。 ○前回までに練習した「もみじ」の合唱をしましょう。 2 自分たちの合唱を聞き、めあてを確かめる。 【めあて】 曲にふさわしい歌い方を工夫して「もみじ」を歌おう。 ○「もみじ」の曲にふさわしい歌い方を工夫して合唱を完成させましょう。	◇発声を兼ね、姿勢や響きを確かめながら楽しく授業に入れるように雰囲気づくりをする。 ◇本時は合唱の完成に向けて歌い方の工夫をしていくことを説明し、自分たちの歌をよりよくすることを意識させる。	・CD ・拡大した楽譜 ・ボイスレコーダー
考える (20) 伝える・高める (10)	3 パートごとに分かれて練習をする。 ●美しい二部合唱にするためには、どのような歌い方の工夫をするとよいですか。 ○楽譜に工夫を書き込みながら練習しましょう。 ・拡大した歌詞譜に歌い方の工夫を書きながら練習をする。 C 「まつをいろどる」で松の木が色とりどりになるから、ここから盛り上がるように強く歌おう。 C 「にしき」はとてもきれいな布だから、きれいな声で歌うように特に気をつけよう。 4 パートごとに歌の発表をする。 (1) どんどこを工夫して歌うか説明する。 (2) 実際に歌い、意見や感想を出し合う。	◇声の様子を見て事前にパート分けを行っておく。 ◇強弱や出だしの工夫など、これまでに行った歌い方の工夫を想起させ、見通しを持たせる。 ◇歌詞や歌ってみた気分について前時までに子どもたちから出た意見や気づきをまとめたものを掲示し、工夫の手がかりにできるようにする。 ◇練習の様子を観察し、よい工夫の仕方やその理由付けを随時評価していく。 ◇なぜそのような歌い方にしたのか根拠や理由を尋ね、児童の思いを引き出すようにする。 ◇強弱や歌詞の表す美しい情景を思い浮かべながら歌えるように写真資料などで意識付けをする。 ◇上下パート・合唱の声が入ったCDを用意し、自分たちで活用させる。 ◇どの部分でどんな工夫をしているか、意識して聴き合うように声掛けをする。	・パートごとの楽譜
まとめる (10)	5 まとめの合唱をし、ふり返りをする。 (1) まとめの合唱をする。 (2) 声の重なり的美しさや歌っているときの気持ちなどについて振り返りをする。 C もみじがきれいに色づいている様子を思い浮かべながら歌えたからうれしい。 C 自分たちで考えた工夫を表現して歌えたから気持ちがよかった。	◇まとめの合唱を聴き、美しく表現できている部分を全体で確認した後に個人の振り返りを行うことで、本時のねらいについて自分の学びを自覚できるようにする。 ◇自分の思いをもって歌ったことや情景を思い浮かべながら歌ったことなどをあげている感想を意図的に紹介し、めあての達成感を高める。	・ボイスレコーダー ・振り返りカード
評価【表現の創意工夫】(演奏聴取、表情、発言内容、振り返りカード) B評価：強弱やなめらかさに気を付けて、「もみじ」の歌い方を工夫している。 A評価：歌詞を根拠として、どのように歌うか思いや意図をもって「もみじ」の歌い方を工夫している。			